

- 1 学年 2年
- 2 教材 家庭基礎 生活ハンドブック
- 3 単元名 食生活をつくる
- 4 単元目標 生涯を通じて健康で安全な食生活を営むために、日常的な食品の栄養や調理上の性質を科学的に理解させる。また、食生活の変化や問題点について考えることができるようにする
- 5 単元指導計画
- |                    |              |
|--------------------|--------------|
| (1) 食生活について考える     | 1時間          |
| (2) 食事と栄養・食品       | 4時間          |
| (3) 食生活の安全と衛生      | 2時間          |
| (4) 生涯の健康を見通した食事計画 | 1時間          |
| (5) 調理の基礎（調理実習3回）  | 6時間          |
| (6) これからの食生活       | 2時間（本時2 / 2） |

6 単元の評価計画（評価規準）

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
健康と安全、環境に配慮した食生活に関心をもち、意欲を持って学習活動に取り組んでいる。	栄養、食品、調理などについて課題を見だし、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し、表現している。	主体的に食生活を営むために必要な調理や食生活の管理などの技術を身に付けている。	栄養、食品などについて科学的に理解し、安全と環境に配慮した食生活を営むための知識を身に付けている。

- 7 本時の目標 経済の発展に伴い豊かになった食生活の現状を理解するとともに、健康・安全面以外の問題点に気づき、その課題解決のために各自が取り組むべき改善方法について考える。

8 本時の学習展開

	学習内容・活動	指導上の留意（観点別評価）
導入 (4分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時の授業の復習</li> <li>「和食と洋食の自給率」について確認をする。</li> <li>(農林水産省) <a href="http://www.maff.go.jp/j/zukyu/zikyu_ritu/012.html">http://www.maff.go.jp/j/zukyu/zikyu_ritu/012.html</a></li> <li>日本の食料自給率参照</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>和食と洋食の調理実習の献立を比較し、自給率の違いが生じる要因を考えさせる。</li> </ul>
展開 (42分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時の学習キーワードについて、1人1テーマを学習し、班員に解説する。(1班4人を原則とする)【ワークシート①】</li> <li>(本時の学習キーワード)</li> <li>A 地産地消</li> <li>B フード・マイレージ</li> <li>C グリーンコンシューマー</li> <li>D フェアトレード</li> <li>調べ学習 2分・発表 1分×4人 = 4分</li> <li>情報・知識の共有</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>班内での役割（進行係、発表係）を決定し、主体的に学習活動へ参加させる。</li> <li>教科書、資料集の確認をさせ、ワークシートに調べた内容をまとめさせる。</li> <li>班員に解説することで、本時の学習キーワードへの理解を深めさせる。(知識・理解：ワークシート)</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・班内で話し合い、ダイヤモンドランキングを作る。</li> <li>・重要度の高い項目から順番に記入していく。【ワークシート②】</li> <li>・ランキング理由を記入することで、環境を考えた食生活についてまとめる。【ワークシート③】</li> <li>・フードマイレージの低減や持続可能社会について、実践できる方法を理解する。</li> <li>・各班の話し合い結果を発表する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>ランキング表を黒板に掲示して、説明する。 (時間が不足した場合は代表班)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表内容から、新たな気づきをプリントに書き加える。【ワークシート④】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ討議をとおして、自分の考えを深めさせる。</li> <li>・机間巡視しながら積極的に発言するように働きかける。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・聴く・話す・意見をまとめるなど主体的な学習を実践させる。 (思考・判断・表現：ワークシート)</li> </ul>
まとめ (4分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時で学んだことを確認する。</li> <li>・自己評価を行う。</li> </ul>	授業の振り返りができるように自己評価をさせる。

### 【観点別評価の進め方】

#### ①「知識・理解」を深めるための指導の工夫

- ・調べる、まとめる、解説するという言語活動を取り入れることで、知識、理解を深めさせる。

#### 十分満足できると判断した例

- ・教科書・資料集を利用して情報収集し、整理している。
- ・相互学習の内容を工夫してまとめている。
- ・机間巡視を行い、グループ活動の様子を観察し、意欲的な学習状況も評価する。

#### ②「思考・判断・表現」を深めるための指導の工夫

- ・意見をまとめ、発表する能力を高めるために、グループワークを積極的に取り入れる。他者の意見を共有することで、自己の考えを深めることが期待できる。

#### 十分満足できると判断した例

- ・積極的な話し合いをし、環境への配慮をふまえたダイヤモンドランキングを記入できている。
- ・他班のランキング理由を参考に、持続可能な食生活を営むための具体的な記述がある。

### 【言語活動の展開の工夫について】

- ・意欲的に取り組む態度、関心を高めるために、新聞記事やテレビ視聴など身近で新しい内容を取り入れる。この時、読んだ内容・視聴した内容から気づいたこと・考えた事を文章にまとめさせる。(関連する大学入試小論文テーマを調べ、活用するとよい)
- ・意見をまとめ、発表する能力を高めるために、グループワーク・プレゼンテーション・ディベート・ロールプレイなどを積極的に取り入れる。
- ・各単元で身に付けるべき能力知識・技能を明確にし、評価基準を設定する。具体的な評価方法を工夫し、考查や製作物に偏らないよう多面的な評価が必要になる。
- ・言語活動を充実させることは、家庭科の特性を生かしたホームプロジェクトや学校家庭クラブ活動の発展につながる。生徒が学習した成果を表現させる方法として、積極的にホームプロジェクトを利用したい。

※参考：全国高等学校家庭クラブ連盟(FHJ) [www.kateikurabu-renmei.jp/](http://www.kateikurabu-renmei.jp/)

持続可能な食生活を目指して

組 番氏名

① 次の言葉を調べよう→班員 1 人が 1 テーマを調べ、班員に説明する。

地産地消 (P.112)	フード・マイレージ (P.112)
グリーンコンシューマー(P.178)	フェアトレード(P.179)

② ダイヤモンドランキングを考えよう

→班で相談し、A~I の中で重要度 (大切だと考える) 順に 1~9 へ記入していく

重要

A 地産地消を普及する

B 地元野菜直売所を増設する

C 野菜・魚を中心とした和食の普及  
(地域料理講習・学校給食への導入など)

D ノー自動車ディを推進する

E 環境負荷が少ない自動車の普及

F 農業・水産業従事者への支援を充実させる

G 都市型農業(近郊農業)を推進する

H 有機野菜やフェアトレード商品への理解と販売促進をする

I 外食回数や食品ロスを減らす

③ 上記のように並べた理由

④ 班ごとに発表する→違った意見を認め合おう。なるほど!と感じた事を書きましょう  
(例) ( ) 班の〇〇の考え方が参考になった。

- ※自己評価 (4. と思う 3. まあそう思う 2. あまり思わない 1. 思わない)
- ・フードマイレージの低減方法を考えることができた ( )
  - ・食生活の問題から持続可能な社会について関心を持った ( )
  - ・班員と相談して作業に取り組めた ( )